

平成22年度研究調査報告

1. 修学旅行の実施状況調査

2. 修学旅行の課題調査

『めざす修学旅行に向けての
取組みについて』

～関東・東海・近畿 地方集計比較～

【感性をはぐくむ修学旅行の展開】

平成23年3月

財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

I	調査研究のねらい	1
II	調査概況	2
	1. 調査の対象	
	2. 調査の時期	
	3. 調査内容	
	4. 回答状況	
III	実施概況	2
	1. 実施時期	
	2. 実施日数	3
	3. 実施方面	
	4. 地区別費用区分	
	5. 方面別旅行費用（関東地区）	4
	6. 方面別費用平均	
	7. 不参加生徒数の有無（関東地区）	
	8. 連合体の新大阪以西の利用について（関東地区）	5
	(1) 広島まで利用可能となった場合	
	(2) 増額となるが利用希望されるか	
	9. 将来の航空機利用について（関東地区）	5
	(1) 将来航空機利用をしたいか	
	(2) 利用したい空港について	
	(3) 飛行機での行先は	
IV	めざす修学旅行に向けての取組みについて	6
	1. 修学旅行を実施するにあたり、最も期待されている内容は何ですか	
	2. その期待に向けて、訪問地で最も重視した活動は	7
	3. 修学旅行でどのような直接体験活動が組み込まれたか	
	4. 特色ある取組みを実施していましたら紹介下さい	9
	5. 修学旅行実施にあたり、JRや旅行会社等に要望がありましたら ご記入ください	11
V	まとめ	16

I 調査研究のねらい

修学旅行は特別活動の学校行事『旅行・集団宿泊的行事』に位置づけられている。学習指導要領によれば特別活動の目標は「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。

また、旅行・集団宿泊的行事の内容は、「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とある。

各学校においては、修学旅行のねらいや修学旅行で育てたい能力を明確にして、活動の充実を図ることが求められる。

今年度はこれらをふまえ、大切な行事をより一層充実させるために、生徒の心(感性)に訴える修学旅行をテーマに調査集計した。「感動ある修学旅行の実現」を図るためには、生徒の感性に働きかける体験活動は欠かすことのできない大切なものである。自己を見直す契機となる体験は「感性をはぐくむ」出発点として重要なことと考えられる。

多くの学校では修学旅行の中で体験活動を取り入れているが、生徒の感性に働きかけ、感動や共感を顕在化していく価値を付加することでより充実した修学旅行の実現が可能となろう。

本調査においては関東・東海・近畿の三地区公立中学校における修学旅行の実施状況(継続調査)と、「めざす修学旅行への取組み(課題調査)」を通して、各学校が生徒の感性にいかに関わりかけ、ねらいや目標に迫ろうとしているのか最も重視した活動や直接体験活動について調査した。

学校が目指そうとする修学旅行、訪問地で最も重視している活動、そのためにどのような直接体験活動を組み込んでいるのか、これまでの調査より、より踏み込んだ形で学校の取組みを紹介してもらえるよう調査項目を考え、関東、東海、近畿の三地区に共通の質問を試みた。

調査していく中で、関東、東海、近畿地区それぞれ訪問地が異なることによって体験活動の内容の違いもかなりはっきりとわかり特徴が表れている。

関東地区の学校は歴史文化体験への比重が大変高く、東海地区においては歴史文化体験に加えて社会体験活動、すなわち福祉ボランティア活動、職場体験や平和学習などへの体験活動の比重も大きい。近畿地区は自然・スポーツ体験が最も多く、訪問地区の特徴が反映している。航空機利用については東海・近畿地区で可能となっている地域がみられる。

関東・東海・近畿三地区公立中学校の主な訪問地は下記のとおり。

	(21年度)		(22年度)
*関東地区—関西(京都・奈良)方面へ	85%	⇒	88%
*東海地区—関東(東京・伊豆・箱根他)方面へ	82%	⇒	80%
*近畿地区—関東(東京・伊豆・箱根他)方面へ	36%	⇒	35%
沖縄方面へ	30%	⇒	29%

平成22年度修学旅行の実施状況調査

II 調査概況

1.調査対象

関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校

東海3県(三重・岐阜・愛知)の公立中学校

ただし愛知県は県中学校長会調査データを使用

近畿2府4県(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山)

2.調査の時期

平成22年7月～11月

3.調査内容

(1)平成22年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況

時期・日数・旅行方面・宿泊地・旅行費用・不参加生徒数・新大阪以西の利用・航空機利用

(2)めざす修学旅行に向けての取組み

4.回答状況

	関東	東海	近畿	合計
調査校数	1,379	764	1,049	3,192
回答校数	1,227	697	989	2,913
回答率	89.0%	91.2%	94.3%	91.3%

(関東地区)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
調査校数	233	166	174	423	383	1,379
回答校数	136	161	126	422	382	1,227
回答率	58.4%	97.0%	72.4%	99.8%	99.7%	89.0%

(東海地区)

	三重県	岐阜県	愛知県	合計
調査校数	165	193	406	764
回答校数	140	151	406	697
回答率	84.8%	78.2%	100.0%	91.2%

(近畿地区)

	滋賀県	京都府	奈良県	大阪府	兵庫県	和歌山県	合計
調査校数	101	100	108	334	269	137	1,049
回答校数	97	99	104	334	254	101	989
回答率	96.0%	99.0%	96.3%	100.0%	94.4%	73.7%	94.3%

III 実施概況

昨年度は新型インフルエンザの影響を受けて、8～9月に延期実施した

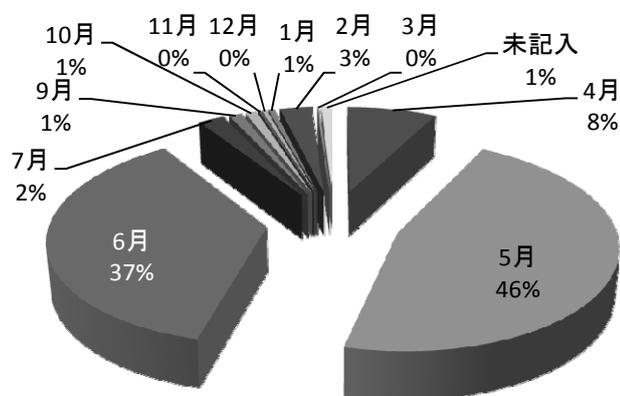
学校も多くみられたが、今年度は従来の時期に戻った。

三地区ともに5～6月実施が圧倒的に多く83%の学校が実施している。

次いで、4月実施となる。冬期の実施は第二学年実施が含まれている。

1.実施時期

	関東	東海	近畿	合計	割合
4月	30	36	155	221	7.6%
5月	467	308	577	1,352	46.4%
6月	549	341	181	1,071	36.8%
7月	64		1	65	2.2%
9月	20	7	4	31	1.1%
10月	1	2	25	28	1.0%
11月		1	4	5	0.2%
12月	12			12	0.4%
1月	16			16	0.5%
2月	50	1	29	80	2.7%
3月	2	1	4	6	0.2%
未記入	16		9	25	0.9%
合計	1,227	697	989	2,913	100%



(実施時期)

2.実施日数

	関東	東海	近畿	合計	割合
2日間	2	0	5	7	0.2%
3日間	1,210	692	977	2,879	98.8%
4日間	2	5		7	0.2%
未記入	13	0	7	20	0.7%
合計	1,227	697	989	2,913	100%

- ・東海地区の3泊4日の実施校は、三重県で車中泊(バス・船中)を伴う学校や沖縄3泊・東京3泊を実施している学校である。
- ・公立学校の約99%は2泊3日の実施である。

3.実施方面

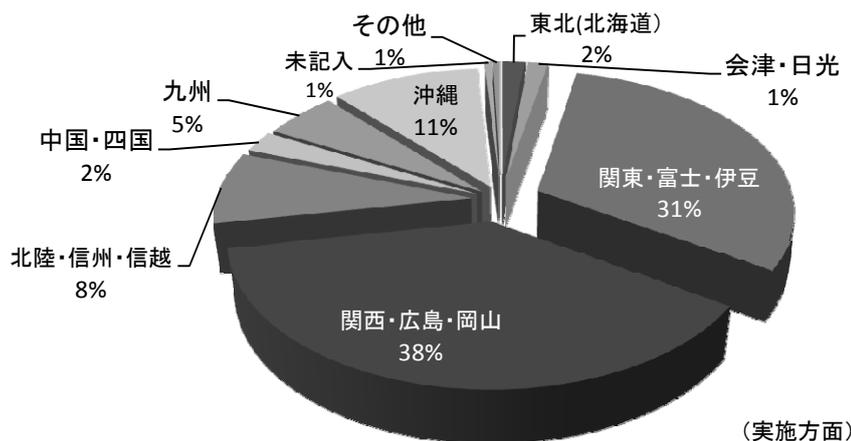
	関東	東海	近畿	合計	割合
東北(北海道)	21		26	47	1.6%
会津・日光	43			43	1.5%
関東・富士・伊豆	3	554	347	904	31.0%
関西・広島・岡山	1,085	18	4	1,107	38.0%
北陸・信州・信越	62	21	158	241	8.3%
中国・四国		50	21	71	2.4%
九州		16	140	156	5.4%
沖縄		28	286	314	10.8%
未記入	9		6	15	0.5%
その他	4	10	1	15	0.5%
合計	1,227	697	989	2,913	100%

*北海道方面へは近畿地区から

*東海地区から関東方面へ(日光も含む)

*近畿地区のその他は海外(オーストラリア)

- ・関東地区は88%の学校が関西、或いは広島(11校)を含め関西方面となっている。
- ・信州、会津・日光、東北方面は千葉県の中学校のみが実施している。農業体験や自然・スポーツ体験を実施している。
- ・東海地区は東京を中心に都心近郊(79.5%)での企業訪問や職業体験などキャリア教育、国会議事堂、皇居、東京ディズニーランド等の見学、あるいは体験が行われている。
- ・近畿地区は多方面に分かれていて、中でも関東(35.1%)、沖縄(28.9%)に二分され、次いで、信州や九州方面となっている。重視する活動(目的)により方面が異なってくる。民泊、農業体験、漁業体験、自然・スポーツ体験、キャリア教育等、平和学習等。



4. 地区別費用区分(生徒一人当たり平均額<体験活動を含む>)

・生徒一人当たりの最高金額(110,894円)、最低金額(13,655円)となり、かなりの金額差がみられる。

	関東	東海	近畿
最低額	29,000	31,500	13,655
最高額	80,000	96,000	110,894
平均額	57,338	58,146	63,458

- ・三地区の平均額は
 関東地区(57,338円)
 東海地区(58,146円)
 近畿地区(63,458円)

・全体の平均額は
(59,647円)となる

*ただし東海地区は三重県・岐阜県

*ただし近畿地区の学校で海外に行っている学校(228,120円)については、含まず

5. 方面別旅行費用(関東地区)

	東北	会津日光	伊豆箱根	信州	広島 関西	未記入	北陸	関西	その他	合計
～29,999		1								1
30,000～39,999	1	18	1	8				3		31
40,000～49,999	9	13	1	30				81	3	137
50,000～59,999	7	3	1	8	2			405		426
60,000～69,999	1	2			1	1		398		403
70,000～					5			66		71
未記入	3	6		14	3	8	2	121	1	158
合計	21	43	3	60	11	9	2	1,074	4	1,227

*会津・日光、信州、東北方面の費用は30,000～59,999円となり、関西方面に比べ安価となっている
 ・地区別に旅行費用を見ると関東地区は50,000～59,999円が最も多く、次いで60,000～69,999円となる。

6. 方面別費用平均

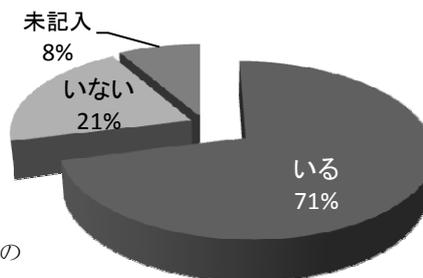
	関東	東海	近畿	関東地区		近畿地区	
				最高額	最低額	最高額	最低額
東北・北海道	49,137		72,654	64,000	39,000	99,492	55,600
会津・日光	40,005		-	60,000	29,000	-	-
関東・富士・伊豆	41,333		58,216	52,000	32,000	90,425	39,603
信州・信越・北陸	43,870		45,935	56,000	36,000	68,900	35,058
関西	58,800		31,010	80,000	31,200	48,377	14,918
広島・関西・中国	69,687		45,607	79,929	54,000	58,670	37,091
九州	-		58,130	-	-	71,432	39,073
沖縄	-		66,347	-	-	110,894	13,655
その他	44,062		69,255	44,062	44,062	-	-
海外	-		228,120	-	-	228,120	228,120
未記入	61,000		69,255	61,000	61,000	69,255	69,255
平均額	57,338	58,146	63,458	62,124	40,783	93,952	59,153

*東海地区は三重県・岐阜県の平均額

7. 不参加生徒数の有無

	(学校数)校 (関東地区)						合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉			
いる	98	111	72	288	304	873	71.1%	
いない	35	44	51	51	71	252	20.5%	
未記入	3	6	3	83	7	102	8.3%	
合計	136	161	126	422	382	1,227	100.0%	

- ・不参加生徒のいる学校数は約70%を占める。
- ・理由の主なものとしては不登校が圧倒的に多く(約65%)、その他病欠によるものや経済的理由などがみられる。



(不参加生徒有無)

参加生徒数・不参加生徒数(人)(東海地区)

	三重	%	岐阜	%
参加生徒数	14,167		15,381	
不参加生徒数	215	1.5%	270	1.8%
内 経済的理由	20	9.3%	17	6.3%

*東海地区は三重県・岐阜県

・参加生徒数:不参加生徒=(98.4%):(1.6%)

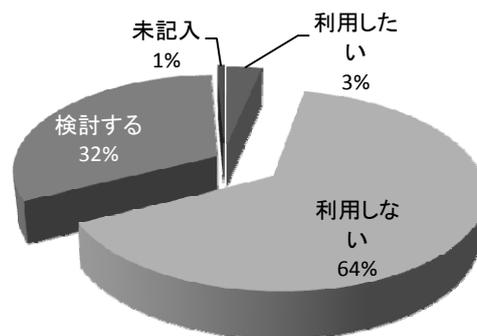
8.連合体の新大阪以西の利用について(関東地区)

(1)広島まで利用可能となった場合

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
利用したい	5	10	11	6	8	40
利用しない	78	93	85	270	258	784
検討する	52	58	29	143	105	387
未記入	0	0	0	3	4	7

(2)増額となるが利用希望されるか

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
利用したい	3	8	0	2	6	19
利用しない	0	0	0	1	1	2
検討する	2	2	11	3	1	19
未記入	0	0	0	0	0	0



(1)広島まで利用可能となった場合

- ・1の利用可能となった場合、「利用したい」あるいは、「検討する」と答えた学校が427校(35%)と多くの学校が関心を示していることが分かる。22年度には、広島方面実施校が11校あり、さらに、23年度は30校ぐらいの利用増が見込める。
「検討する」としている学校も387校あることから、さらに利用増加が考えられる。
- ・2では「増額となるが利用希望されるか」とかなり具体的金額を示した上での調査であるが19校が利用したい、さらに19校が検討したいとしている。

* 関修委修学旅行委員会として、毎年JR東海等へ新大阪以西の割引要望書の提出、あるいはJRとの意見交換会で要望等行っているが、実現に向けて、今後とも継続していく。

9.将来の航空機利用について(関東地区)

(1)将来航空機を利用したいか

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
利用したい	16	9	4	8	16	53
利用しない	60	100	91	330	285	866
検討する	52	52	29	84	70	287
未記入	7	0	1	0	4	12

(2)利用したい空港について

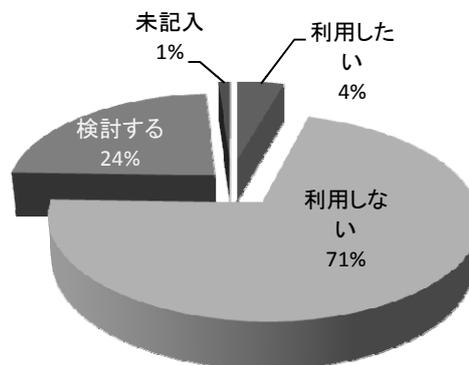
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
羽田空港	0	5	7	8	20	40
茨城空港	16	2	0	0	1	19
その他	0	3	1	0	2	6

その他:成田空港2校、福島空港3校、未定1校

(3)飛行機での行先は

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
奈良京都方面	12	4	2	2	3	23
広島方面	5	2	2	1	6	16
九州方面	2	2	1	9	10	24
その他	1	3	4	2	9	19

その他:北海道4校、東北方面1校、沖縄5校、北海道・沖縄1校、韓国1校、中華人民共和国1校、未定・検討6校



- ・「将来航空機利用が可能となった場合」という条件付きであるが、航空機を利用したいと考えている学校は53校(4.3%)となり、検討したいと考える学校は287校(23.4%)ある。
- ・利用したいと考えている学校では茨城県、千葉県のそれぞれ16校で他県より多くみられる。
- ・北海道、沖縄、海外等へと考えている学校もある。

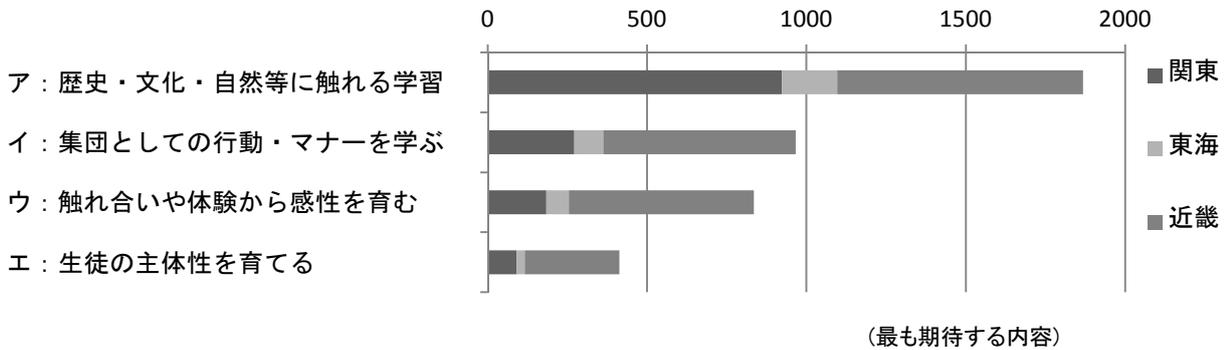
*今後航空機利用による連合体輸送など検討していくことが必要であろう。

IV めざす修学旅行に向けての取組みについて

1. 修学旅行を実施するにあたり、最も期待されている内容は何か(複数回答あり)

	関東	東海	近畿	合計
ア：歴史・文化・自然等に触れる学習	923	174	771	1,868
イ：集団としての行動・マナーを学ぶ	272	91	603	966
ウ：触れ合いや体験から感性を育む	184	71	580	835
エ：生徒の主体性を育てる	91	26	296	413

* 東海地区は三重県、岐阜県(計291校)



(関東地区)

- ・アの「学校の学習では得ることのできない歴史・文化・自然等に直接触れる学習ができる」ということに最も期待している学校が、923校/1,227校(75.2%)と多い。
- ・次に、イの「集団としての行動のあり方や道徳的マナーが学べる」が272校であった。関東地区の中学校では修学旅行の実施方面について、関西方面が約90%と他を圧倒、信州方面4.9%、会津・日光方面3.5%、東北方面1.7%といった状況である。
- 「関西＝歴史・文化、自然等に直接触れる学習が最も期待できる」という願いが込められていることが伺える。

(東海地区)

- ・東海地区からは193校/291校(66.3%)が東京を中心とした関東方面が最も多い。これらの方面で「歴史・文化あるいは自然等に直接触れる学習」を中心とした取組みが行われている。
- ・企業者講演・企業研修で自己の生き方を考える、生き方学習についての取組みをする。

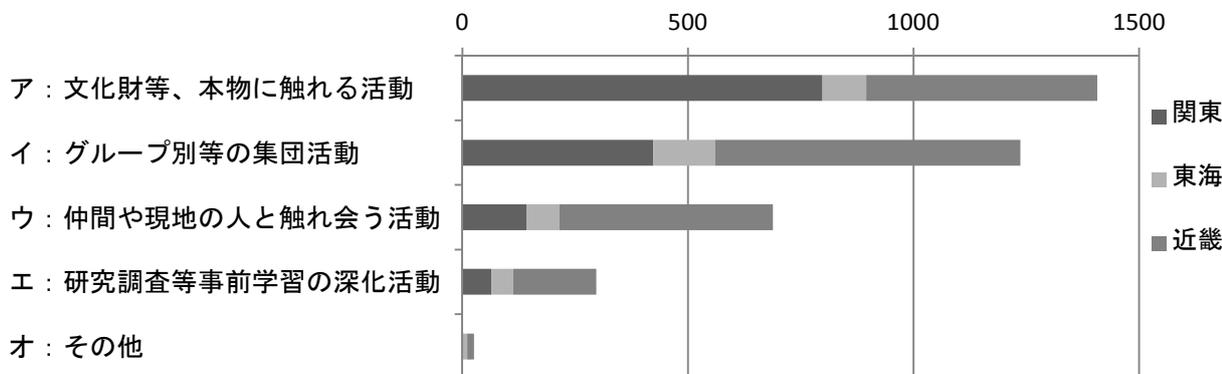
(近畿地区)

- ・アの「歴史・文化・自然等に直接触れることを期待している」が他の項目より若干多いが、「集団としてのマナーを学ぶこと」、「仲間・現地の人々との触れ合いから感性を育む活動」も同様多いのが近畿地区の特徴でもある。
- ・近畿地区からは関東方面と沖縄方面への修学旅行に二分されるが、信州方面や九州方面も多く関東や東海地区に比べて選択肢が多い。期待する内容も当然異なったものとなった。

2. その期待に向けて、訪問地で最も重視した活動はどのようなことですか(複数回答あり)

	関東	東海	近畿	合計
ア：文化財等、本物に触れる活動	798	97	512	1,407
イ：グループ別等の集団活動	423	138	676	1,237
ウ：仲間や現地の人と触れ合う活動	142	73	473	688
エ：研究調査等事前学習の深化活動	64	49	184	297
オ：その他	1	10	15	26

*東海地区は三重県、岐阜県(計291校)



(期待に向けて訪問地で最も重視した活動)

(関東地区)

- ・1の項目に関連して、「訪問地で具体的に最も重視した活動について」問うものであるが、最も多かったのは、アの「文化遺産・文化財、本物に触れさせることを重視した活動」が798校(65.0%)である。続いて、イの「班別体験、集団行動、マナーを重視した活動」が423校(34.5%)あった。
- ・アとイの項目を重視することは現在の修学旅行の行動様式等からも大いに考えられることであるが、「体験を通して感性をはぐくむ」ことを重視するという学校も近年増加の傾向にある。
- ・「訪問地で最も重視した活動」と「直接体験活動」の設問から考えられることは、班別行動を中心として、班毎の事前学習等を充実させて、生徒同士のコミュニケーションを図りつつ文化遺産等本物に触れさせたいという意向がうかがえる。
- ・「生徒の主体性や集団としてのマナーを身につけさせたい」という学校の願いも考えられる。「現地の方たちとの触れ合いも期待したい」というのが増加傾向にある。

(東海地区)

- ・「班別体験、集団のマナーなど重視した活動」を最も重視していることが分かる。
- ・企業訪問、地元地域紹介などグループでの活動を中心として主体的に取り組む。

(近畿地区)

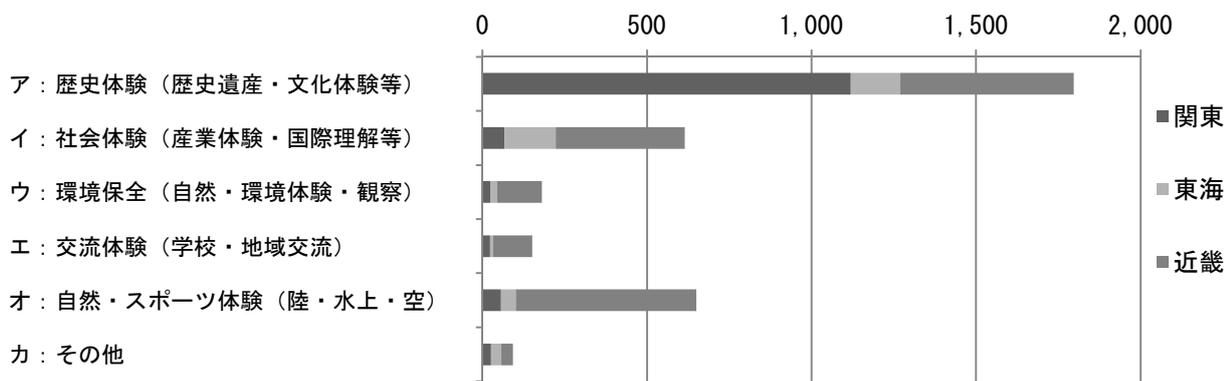
- ・「班別体験、集団のマナーなど重視した活動」を最も重視していることが分かる。ア、ウについても大変多く、訪問方面の分散化により重視する活動もそれぞれの地域により、適切なものに考えられている。

3. 修学旅行でどのような直接体験活動が組み込まれましたか(複数回答あり)

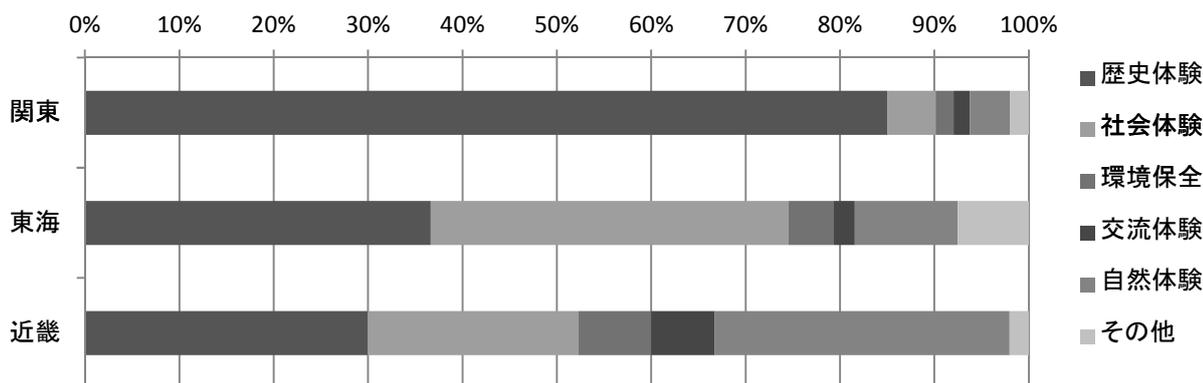
	関東	東海	近畿	合計
ア：歴史体験（歴史遺産・文化体験等）	1,119	151	527	1,797
イ：社会体験（産業体験・国際理解等）	67	156	392	615
ウ：環境保全（自然・環境体験・観察）	25	20	136	181
エ：交流体験（学校・地域交流）	23	9	119	151
オ：自然・スポーツ体験（陸・水上・空）	56	45	549	650
カ：その他	26	31	36	93

その他：座禅7校、清水焼3校、漫才観劇2校、創作活動1校、琵琶湖クルーズ1校、ペンション1校

*東海地区は三重県、岐阜県(計291校)



(組み込んだ直接体験)



(体験毎の割合/地区別)

(関東地区)

- ・直接体験活動として各県圧倒的に多かったのは、アの「歴史文化体験」で1,119校(91.2%)であった。京都、奈良でないと体験できない体験活動を取り入れて、工夫を凝らしている学校も多くみられる。また、漫才・観劇等を取り入れている学校もある。
- ・千葉県の子の「環境保全(自然・環境体験・観察)」や「自然・スポーツ体験活動」が多くみられるのは訪問方面の異なる(信州、東北方面等)ことによる要因が大きい。学校のねらいによって行き先、直接体験活動の種類も変わってくる。

(東海地区)

- ・直接体験活動として最も多いのは社会体験活動(キャリア教育(職場体験・産業体験)、平和教育・人権教育等)であり、二分するのが歴史体験活動である。
- ・企業研修や模擬国会、専門学校で資格・技術習得体験など「生き方と関連づけた学習」も多くみられる。都内の企業訪問、聞き取り調査等の進路学習も行われている。

(近畿地区)

- ・関東、東海地区と異なり、オの「自然・スポーツ体験」が最も多い。沖縄方面を始め、北海道、信州方面に行く学校が多く、豊かな自然の中での直接体験を組み込む学校が多くなるものと考えられる。
- ・農家民泊(農業体験)やアウトドア体験、マリンスポーツ体験など多くみられる。
- ・関東地区(主に東京)では歴史、社会体験を中心として企業めぐりや国会議事堂や皇居、裁判所、東京タワー、江戸東京博物館、浅草、お台場そしてディズニーランド等がコースに入っている。

4. 特色ある取組みを実施していましたら紹介下さい

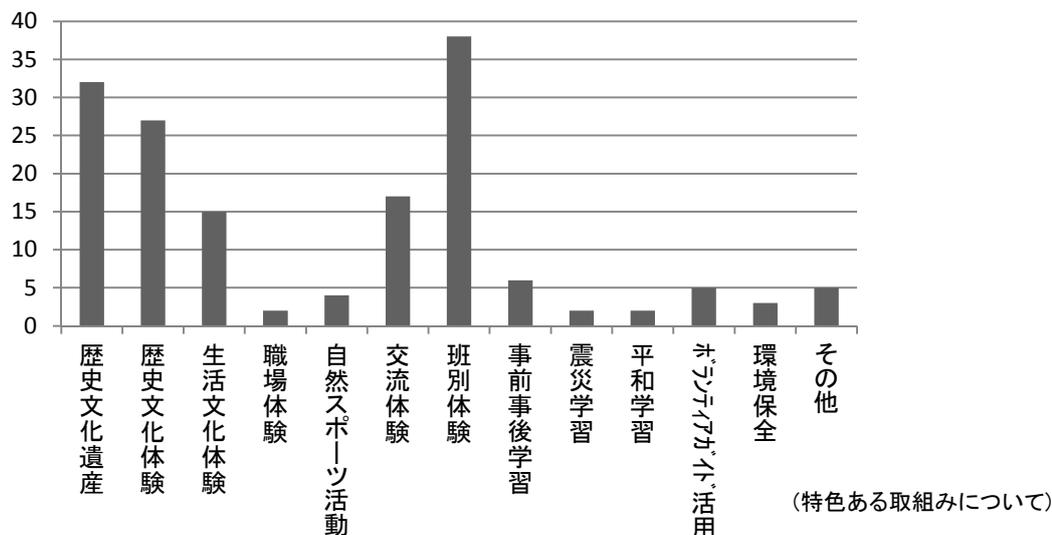
(関東地区)

※複数回答あり

歴史文化遺産	32	能楽鑑賞・舞妓鑑賞・諏訪太鼓・座禅体験・説法
歴史文化体験	27	赤べこ制作・着物着用し、そのまま帰校・和菓子作り・絵付け・友禅染
生活文化体験	15	農業体験
職場体験	2	地場産業等の一日体験・工房訪問
自然スポーツ活動	4	アウトドアスポーツ・カヌー・男体山登山
交流体験	17	大学生との合唱交流・地元小中学生との交流・舞妓さんとの交流
班別体験	38	班別自主行動・初日現地集合
事前事後学習	6	個人レポート・紀行文作成・劇化発表会等・句集作成
震災学習	2	神戸 人と防災未来センター・講演
平和学習	2	立命館平和ミュージアム・折り鶴奉納、合唱
ボランティアガイド活用	5	退職教員によるガイド・学生ガイド活用
環境保全	3	箸持参での行動・京都で植樹
その他	5	テーブルマナー講習、夜間・早朝の参拝、おつとめ体験

(関東地区)

- ・特色ある取組みとして、どのような取組みが行われたかを問う項目であるが、各県とも歴史文化遺産の体験と班別による体験が行われている。
中でも、僧侶の法話、絵付け、八橋づくり、座禅体験、能体験、京扇子づくり、舞妓さん鑑賞、紀行文づくり、和菓子づくり等している学校が多くみられた。
- ・今年度は「平城遷都1300年祭」の年にあたり、見学コースに平城遷都1300年祭を取り入れた学校も多くみられた。
- ・平和学習として立命館平和ミュージアムを見学したり、防災学習として神戸で語り部の方から話を聞いた「人と防災センター」で疑似体験をしたり、宮大工棟梁の講演を聞いたりするという新たな取組みもみられた。
- ・世界遺産を前に献茶式を行うなど、世界遺産に触れる体験をして生徒の感動を呼び起こす試みをした学校もあった。
- ・浴衣を着用して清水参りをしたという学校もあり、これまでみられた体験活動とは一味異なる各学校における工夫を凝らした取組みもみられた。



(東海地区)

- [平和学習]— 広島被爆体験講話、平和記念公園セレモニー
- [災害・震災学習]— 被災地の様子を学ぶ
- [人権学習]— 杉原千畝や八百津町の紹介
- [キャリア学習]— 職場訪問、OBによる進路講演会、商人体験
- [環境・福祉学習]— 沖縄の歴史、文化、自然現地調査、バリアフリー福祉調査
- [伝統・文化学習]— 鎌倉・東京の文化施設、文化遺産研修、東京の伝統工芸体験
- [ボランティア学習]— 海岸清掃
- [文化・芸術学習]— 文化・芸術に触れる。本物の芸術に触れる。
- [各種体験学習]— 漁村体験、築地のセリ、模擬裁判体験
- [生徒会活動]— 中学校間交流、干潟体験、ナイトフェスティバル、ユニセフ募金
- [その他]— 国会訪問、日本科学未来館見学

(近畿地区)

- ・民泊で生活文化体験(田舎暮らし体験、家業体験)を取り入れ地元の方との交流を深める。
*伊江島、伊是名島、東村、松浦地区
- ・ファームステイ、ペンション利用で農業体験、漁業体験など第一次産業体験をする。
- ・都内班別行動を実施し、伝統工芸体験、企業訪問等キャリア教育の一環としての活動をする。
- ・人権・平和学習を系統的に各学年で取組み見学や体験談を聞き、文化祭で学習発表をする。
全員合唱、平和決意宣言、平和セレモニー *沖縄、長崎、東京、鹿児島等
- ・戦争体験語り部の人と共に浅草周辺を平和学習散策、地元選出国會議員と懇談、議員会館内見学。
- ・事前指導で航空機利用の諸注意・マナーを旅行会社にお問い合わせ。修学旅行報告を実行委員会メンバーで行う。
- ・東京都内班別自主研修の訪問先を、生徒自らがアポイントを取り計画・実施し、3～4人が人範となり、合計88か所に分かれて訪ねる。
- ・地元産産を東京でPR活動する。
- ・「日本の首都(東京)を知る」を学習課題の中心におき、事前学習を充分に行い、班別自主研修でさらに深めるように取組み、政治の中心国会議事堂を見学し学習を深めた。

5. 修学旅行実施にあたり、JRや旅行会社への要望をご記入下さい(関東・近畿地区)

JR(関東地区)

新幹線の割りふりを土日にしなないでほしい。
列車内で他校との間隔を開けて欲しい。
喫煙車両は避けて欲しい。(たばこの匂い残っている)
同一車両に他校を入れないで欲しい。
日時をある程度の幅から選択できるようにしてほしい。
列車の停車時間をもう少し短くしてほしい。
列車内でのサービスの工夫(沿線案内塔)
帰りの列車の時間の短縮。乗り心地の良い列車。
一般客と分けてもらえると助かります。
JR京葉線の利用に対して日曜出発ではなく、平日でも可能に。
少しでも、時間短縮できると良い。
同一車両に同一校を希望する
専用列車の時間帯の選択肢を増やして貰いたい。
東北新幹線 青森までの利用を可能にして欲しい
専用列車の時間帯の選択肢を増やして貰いたい。
新幹線で乗り合わせる学校名を教えてください。
生徒数が少ないので新幹線の車両をひとつに
新幹線車両の座席配置の配慮
専用列車の申し込みを1ヶ月でも遅らせて頂きたい。
班別利用割引
駅の停車時間に余裕を、車内弁当をおいしく
電車の利用時刻を柔軟に
車両の変更をなくしてほしい
一般客との相席は避けたい
団体列車の東京駅乗り入れ
専用列車以外にも同一料金、実施期間の希望を叶える
喫煙車両の使用は避けてほしい
常磐線の臨時列車のスピードアップ
水戸～上野間の時間短縮
新幹線の喫煙車両の使用を避けたい
新幹線の座席割りを学校別でお願いしたい
座席割り当てを早くして欲しい
全クラスが同じ新幹線に乗れるようにして欲しい
朝の新幹線の指定席が欲しい
東京・京都駅構内における集合場所の確保
京都駅での待機場所の確保
宇都宮から東京まで同一列車に乗れるようにして欲しい
新幹線車両の増量
車両変更が2～3回あった
東北新幹線も専用車両を用意して欲しい
新幹線の喫煙車両から離して欲しい
車内のたばこのにおいがきつかった
東京駅で待機時間が長い。待機場所の確保。
新幹線で同乗する学校を早めに教えて欲しい
東北新幹線は生徒全員同じ車両にして欲しい
2つの車両にまたがらないような座席の割り振りにして欲しい
新幹線で同乗する学校を知らせていただきたい。
JR西日本の団体券の発行にもう少し融通がほしい。
新幹線で一般客と一緒に、お互いに迷惑である。
安全に集合しやすい場所の情報をお願いします。
JR料金が高い
JR利用で、なるべく1車両1校にしてほしい。
新幹線料金をもっと安くならないか。
新学期がスタートして、あまり早い時期に組み込まれると、生徒の主体性を出す準備が難しい。
各学校の希望する日時に修学旅行専用列車を利用できるとよい。
日程の希望を少しは取り入れて欲しい
列車が希望通りいかず、早朝や遅い列車になってしまう。
一般客との乗り合いは避けてほしい。他校との乗り合わせもできるだけ考慮願いたい。
引き続き修学旅行専用列車の運行と料金割引をお願いいたします。
新幹線で、一般客とは別にして欲しかった。

JR東海のCMをDVDにして事前学習に役立てたい。
団体専用列車については、停車時間等、長くできないか。
東京駅までの接続時間の短縮
帰り東京駅よりバス利用、駐車場までが遠い
一般車両でないほうがよかった
JR様等たいへん親切にいただいている
駅集合場所の確保。緊急時の対応体制
JR(近畿地区)
JRの学割の率を高めてほしい。(九州新幹線を利用したいのだが・・・)
JR代金が高い
JRの列車の乗車が他校と接近して困る。本校規模なら、一車両に収容できるのに二車両にまたがっていた。
ドタキャンのある生徒の場合、キャンセル料を請求しないでほしい。
修学旅行シーズンには、特別列車をもっと配車してほしい。
一般客と一緒に新幹線の車両へ改善できないか
薩摩川内ー博多間の列車が2本に別れたので、時間のロスがあった。
180人ぐらいの人数なら、1本の列車で移動できたらいい。
集約列車決定後の乗車時刻変更は、列車番ではなく時刻に配慮してほしい。喫煙車両と隣接したり、一般乗客を狭み、別車両となって分断されることのないよう配慮していただきたい。
一般客と同じ車両になり、静かにしていたのに車掌を通して注意を受けたことがある。隣接する車両が個人なのか団体なのか、又はどこの学校なのか、等情報をいただけなかったのは大変困った。
JRの座席等で出来る限り生徒管理しやすい形をお願いしたい。
JRの修学旅行用の臨時列車を増やしてほしい。
JRの臨時列車をやめて、特急列車で新大阪まで行けるように要望したい。
JR集約便を利用すると他の行事と重なることがあり、使用が難しい。
できるだけ新幹線車両を他校と分けてほしい。
一般客との同じ車両の改善。
一般乗客と生徒用席がすき間なく続いているのが気を遣う。
九州新幹線の開通にもない、関西から九州各地への集約列車の企画を早急に立ち上げていただきたい。
九州新幹線も集約列車の対象にしてほしい。
継走臨と新幹線の接続時間に無駄をなくして欲しい
今年度京都駅(帰路)で1時間以上待つこととなったが、できればもう少し連絡をよくしてください。
在来線(大津ー京都)で団体臨時列車を出してほしい。
在来線における団体列車の確保(生徒数が多いため)
修学旅行のJRの対応が、年々きびしくなってきたように思う。これからの日本を支えていく子ども達を日本社会全体で育てていく思いで対応をお願いしたい。
実施予定日に集約列車を取れるようにしてほしい。
車両を一両貸し切りにしてもらいたい。
修学旅行の団体のすぐ横が一般客というケースが多い。もう少し配慮はできないのか。
集約列車の意味があまりないと感じる。
集約列車の時間帯や本数を多くとれないか。申込み時期が早く、少し時期を検討してもらいたい。航空機の利用は発着時間の決定が遅く、日程にも影響がでることから、もう少し早く決定してもらいたい。
集約列車の車両内は一校の中学校だけにして、席が空いていても一般のお客さんを入れないでいただきたい。一般の方には生徒の声がうるさく、ご迷惑をおかけするので。
新幹線の利用で、往路は東京まで「のぞみ」で帰路は「こだま」というパターンを作ってほしい。
他校及び一般乗客との同車両ははずしていただきたい。
貸切りの臨時列車がとりづらくなった
大規模校でも新幹線で一列車で乗れる様にしていきたい。
同じ車両に一般のお客さんを入れないでほしい。(本校の場合92名でほぼ、席は埋まるが)
新幹線座席について一般乗客が中学生団体の間に入ってくる等、又、他校生とのトラブル防止に注意が必要
本校の生徒数(約360~370名)では、駅構内で待機する場所を確保することは困難である。
駅職員の誘導で、安全に待機できる場所への移動をお願いしたい。
臨時列車がとれなかった←大規模校は特に認めていただきたい。
荷物を別便で送る結果となり予想外の経費がかかった。
列車ダイヤの改正があり、乗車したい列車の出発時間が変更され困ったことがあった。
変更時にすぐ連絡がほしかった。
JRの車両は、禁煙車にして欲しい。
新幹線及びホーム等、完全禁煙化
復路:博多駅から乗車する集約輸送列車(専用新幹線)の車内にタバコ臭が残っていることがあり
気分の悪くなる生徒もいる。タバコ臭がしないようにできないだろうか。

旅行会社(関東地区)

神戸、大阪、京都を含んだ企画を提案してほしい。
ラッシュ時の人員配置。希望する形態の宿泊施設。
体験学習で中学生向きなものなるべく多く紹介してほしい。
期日時間の配慮。
インフルエンザ等で急に延期になった時の救済。
一般の旅行の費用の低下に比べ修学旅行費が変化していない。
民泊の予定を具体的に出してほしい。安全対策などの資料を早めに欲しい。
緊急時における臨機応変な対応。
費用の面でバックアップしてほしい。
生徒が興味を持てる企画を提供してほしい。
小規模校のため、業者取り扱いが少ない。長年1社相互甘え。
担当の方は丁寧に教えて頂けると助かります。
体験学習も含めた、モデルコースを提示してくれると検討しやすい。
様々な体験モデルコースの提示。
できるだけ早く日程や車両、座席を知らせてほしい。
経費を低く抑えたい。
現地での予定変更柔軟性を。
宿泊先の変更の場合、事前の下見の計画。
個人で行くよりも旅費が高い。海外や九州の方が安い理由は。
ツアー並みの料金にならないか。
当日キャンセル料の免除の検討。
企画料をもっとやすくしてほしい。
低価格のツアーが多い昨今、費用がかかりすぎる。
パック料金程度の旅行費用にはならないか。
ホテル館内の選定に役立つ資料、映像があると良い。
行事実施や生徒の変化等に細かく対応していただける業者が必要である。
市内の学校ができるだけ短期間で実施できるよう組んでほしい(部活等の市の行事が組めないため)
経費の面でももう少し安価にできないものか。
一度だけの経験なので、形式的にならないように対応してほしい。
宿泊のホテルの立地、条件等満足のものをご用意いただきたい。学校による格差があると感じる。
公教育で実施している修学旅行であるにも関わらず、また、工夫やオリジナリティもほとんどなく。
パッケージ化されているのに旅行業者の企画料、取り扱い手数料が極めて高額であること。
経費を下げる工夫を望む。
添乗員の質の向上と担当者以外の添乗員との打ち合わせを避けること。
諸費用の引き下げを検討していただきたい。
もっと安くあげたい。高すぎる。
経済的負担が大きいため、修学旅行の日程や計画を再検討し、少しでも費用が軽減されるようお願いしたい。
適切な業者側への申し込み、時期、方法等。

旅行会社(近畿地区)

本校の場合、費用を7万円までにおさえたかったが高くなった。もう少し低くできないものか。
新幹線料金、企画料金(4%)を下げることをお願いします。
生徒一人あたりの費用を軽減したい。
費用をもっと安くできないものか。
今後、入札形式を重視すると思うが、エージェン独自の新メニューを提供してほしい。
今の時代に学校関係の旅行が飛び抜けて高額である。保険についても別途であるのに…。
業者によって費用がかなりマチマチ。
一般の企画ツアーに比べると費用が高い。
①効率の良い交通機関の活用 ②費用 ③ホテルの予約
少人数であっても安価で満足の行く修学旅行を提案していただきたい。
日程については、学校で決めたい。
今年は5月連休明けからの出発であったが、学校側の準備・指導を考慮した日程を望みたい。
旅行費の削減のため旅行プランの企画を提示してもらいたい。
料金を安くしてほしい。パックとの差が大きすぎる。
主になる添乗員が多数の学校を持ち過ぎているのか連絡がとれないことがあった。
十分な連携を取れるように考えてほしい。
緻密に打ち合わせを重ねること。(突発的事象が生起することが十分考えられるので)
エージェンツの学校担当者を変えないでほしい。
どこのエージェンツもたくさんの担当を持ち、十分な連携がとれない。
学校側の見学場所等の要望(問い合わせ)に対して迅速な回答ができるようにしてほしい。
今回、いつも来られている方が当日来られず、別の方が添乗員になられたとも困った。
直前の変更は避けてほしい。

添乗員の資質向上。
入札による業者決定後に、計画の一部変更を余儀なくされることが度々ある。
電車や見学先や鑑賞等・・・あたり前のようになっては大変困る。
毎年各社にプレゼンしてもらい、その内容を職員で検討し、旅行会社を決定する。 (金額も考慮するが、内容を重視している。)
毎年入札形式で業者を決めているが辞退する業者が多い。人数の少ない学校をバカにしていると思う。
これでは入札形式にしてもしかたがないと思うが、業者の誠意が足りないと思う。
旅行会社の選定の仕方をもっと考えた方がいいのでは。今年は積立金の返金について少し問題があった。
旅行会社とは綿密な打ち合わせを行っていききたい。
旅行会社と学校との連絡打ち合わせの機会が少なく、新たな情報や学校側からの要望に対する回答が遅いため混乱を招くケースが今年についてはあった。
旅行会社の対応が十分でない時があった。(人手不足のためという説明であったが。)
旅行業者の担当者に企画力、行動力がなければ円滑に修学旅行を行うことができない。
学校現場を十分理解した動きがほしい。
安全面で危機管理への対応、新型インフルエンザ対応。
現在、同じ方面での修学旅行を実施している中学校の情報。
現地の治安の状況を正確に把握してほしい。宿舎、食事場所の利便性等
中学生に合ったものかどうかを把握してほしい。
突発的なでき事が起きた時に、学校の考えを取り入れた臨機応変な対応をすることができるかどうか。
交通機関、宿泊先等における他団体との接触、トラブル防止への配慮を強くお願いしたい。
来年度、重度肢体不自由生徒を含めた生徒集団の引率に当たり、配慮等を具体的に要望していききたい。
現地でしか体験できない学習内容の開発を希望する。
新しい体験学習の場を毎年、提供(紹介)していただきたいと思います。
迅速、ていねい、格安を大きなテーマとして実施してほしい。
生徒個々の現状に測した宿泊地への細かな指示要望などを把握して、伝えて欲しい。

旅館(関東地区)

京都の宿は企業努力が必要。今までのレベルであしらってはいは、二泊三日で5万円以上だとやがて客が納得しくなります。特に、食事のレベルがひどい。
ホテルの食事内容がひどい。
京都市街地に宿がとれない。
食事の中に虫が入っていた。安全への配慮をお願いしたい。
旅館等の設備 お風呂が少ない、狭い

旅館(近畿地区)

宿泊費が高かった。
保健室としての一部屋の確保(インフルエンザ緊急対応として、低料金で確保できるとありがたい)
民宿への宿泊にあたり、事前～当日～事後で、人間的なふれあいを高めるために手紙の交換をしたり、その後のつながりも大切にしたい。

航空会社(近畿地区)

フライトの時間が、希望とかけ離れたものが割り振られることが、今まで、たびたびある。
希望時間を割り当ててほしい。
航空機運賃を押さえしてほしい。LCC利用など教師の負担軽減への良い方法はないものか。
秋(10月実施)の航空運賃を春(5月実施)と同様価格にして頂きたい。
沖縄までの飛行機が4便に分乗となりました。1便で午前中に到着できる便を利用できるようにして頂きたい。
計画通りの航空機に乗れるように願っている。(変更が多い)
航空機の予約を早くできないか。
航空機利用の場合、2-3ヶ月前にならないとどの便か決まらず日程がつかめ切れない。
もう少し早く決定できるようにお願いしたい。
生徒数が多いために、航空機利用の場合は様々な制約が生じ計画がむずかしい。(分便、出発、帰校時間など)
JR博多駅で100名近くを待機させる場所を設けていただければ、トイレもスムーズにできたのではと思う。
伊丹空港でフライトの前のチェックに時間がかかり、トイレに行く時間がなかなかとれなかった。
修学旅行のこともなでもう少しスムーズに通すことはできないものか。検査箇所を増やす等の工夫が欲しい
飛行機の便が良い時間帯にとれるよう配慮願いたい。例、関空AM10時頃 那覇PM2時頃発。
飛行機便の確保。
近い空港が利用できれば時間の短縮につながる。
飛行機の予約が1ヶ月前しかとれず出発時刻が大きくかわることがあるので、もう少し早く飛行機の時間が確定できないか。

その他(近畿地区)

ホテル着を早くなるように工夫してほしい。

修学旅行の時期は、土日を除いて、平日が望ましい。

出発日の希望はできるだけ希望通りにしてほしい。

出発日の希望をもう少し配慮願えればありがたいです。6月初旬や中旬は対外的なものも入って来ます。是非5月中旬を、無理なようでしたら5月下旬をお願いいたします。

可能な限りの保護者負担の軽減。

飛行機を利用だが、修学旅行生徒向けの安い料金設定を希望する。ホテルとのセット等で考えられないものか。

エコバス導入に伴うバス借上げ料金の値上げが旅費全体のアップにつながり、旅費の高い方面は見直しの必要も出てくるので、値上げの圧縮をお願いしたい。

東京都内宿泊地及び、バス借上料の軽減。

平成22年度は列車の確定が大変遅くなったので支障があった。今後そうしたことがないよう是非お願いしたい。(5月の早い時期での実施のため)

1年次に集約をするので、修学旅行実施時(2年後)も同じ職員で対応してもらいたい。

マリンスポーツにおける安全対策。

全国学力調査実施日の調整。

V まとめ

新学習指導要領によると、学校行事の内容の取扱いについて、「～また、実施に当たっては、幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなど振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」等述べられている。

特に体験活動については、『その場限りの活動に終わらせることなく、事前にそのねらいや意義を生徒に十分理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることにより、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後には体験を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り文章でまとめたり、発表しあったりする活動を重視し、他者と体験を共有して幅広い認識につなげる必要がある』となっている。

今回の調査はこれらをふまえて、毎年継続調査をしている、修学旅行実施概況と修学旅行を実施するにあたって、学校としてどのような修学旅行を目指そうとしているのか、二点に焦点をあてて調査する。

今年度は関東、東海、近畿地区の三地区が共通課題のもと調査を実施した。

関東地区（1,227校）、東海地区（697校）、近畿地区（989校）、合計（2,913校）の学校の協力を得て調査をする。特に愛知県については愛知県小中学校校長会、修学旅行特別委員会の協力を得てまとめることができた。

昨年は新型インフルエンザの影響で関東地区の中学校は5～6月の実施が51%にとどまり、7～9月の実施に変更することとなったが、今年度は5～6月実施が83%となり例年と同様になった。関東・東海・近畿地区全体で見ると、やはり5～6月が最も多く、東海地区（93%）、近畿地区（77%）三地区全体で83%と圧倒的に5～6月実施となっている。2月実施も若干みられるが、4～6月までで90%の学校が実施していることとなる。

《めざす修学旅行に向けての取組みについて》

修学旅行を実施するにあたって、学校として生徒に最も期待する内容については、関東、東海地区の学校では「歴史・文化・自然等に直接接触する事による学習効果を最も期待している」となっている。近畿地区の学校では「集団としての行動のあり方や道徳的マナーを学び、身につけること」と「直接歴史等に触れる事による感動する心を育てる」、「触れ合いや体験活動を通し感性をはぐくむこと」に期待をしている学校も同じぐらい多い。

関東地区の学校は85%以上の学校が京都・奈良方面への修学旅行を実施し、歴史・文化の学習に繋がっていることがわかる。近畿地区の学校は関東方面と沖縄方面とに2分され、さらに、九州、北陸方面と多方面に分かれているので、ねらいや期待する内容も旅行方面の特異性によって変わってくるものと考えられる。

直接体験活動の良いところは教科学習の深化におおいにプラスとなったことや、伝統文化・歴史に直接接触する事による興味関心をさらに深め、学習効果を上げる場所にある。

反面、より良い体験をさせようとすると費用の問題があげられている。それと、時間や場所、日程調整等苦労していることがわかる。

また、総合的な学習の時間等の減少に伴い事前・事後の活動のつながりに苦労していることがわかる。体験の質についてもねらいに合致しているのか等今後一層検討を重ねていくことが求められる。

平成22年度研究調査報告
修学旅行の実施状況
修学旅行の課題調査「めざす修学旅行に向けての取組みについて」

平成23年3月

財団法人 全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8

TEL 03-5275-6651 FAX 5275-6653

E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

URL <http://shugakuryoko.com>